静岡新聞で学ぼう

Newspaper in Education

静岡新聞

インドネシア通訳従軍 故和田さんの古里は

「静岡」判明 偶然重なる

太平洋戦争中にインドネシアへ従軍し、その後も現地にとどまった静岡市出身の和田盛雄さん（1920～83年）の足跡をたどろうと現地在住の遺族が24日、和田さんの母校である同市葵区の県立静岡高を訪問した。生前、古里について何も話さなかった故人。静岡が古里と判明する過程は偶然の連続だった。〝祖国の地〟を初めて踏んだ遺族は「こんな奇跡が起きるなんて…」と感慨に浸った。

長年の謎だった亡父の日本での足跡を調べる和田盛明さん（左から2人目）ら一家。調査の過程では、尽力した栗田徳光さん（右から2人目）との奇跡の縁が判明した＝24日午後、静岡市葵区の県立静岡高

調査協力 栗田さん 拓大柔道部ＯＢ 縁に

故和田盛雄さん

訪れたのは、ジャカルタに在住する和田さんの長男盛明さん(52)と妻マリアさん(51)、孫の雪子さん(24)。一家によると、和田さんは拓殖大予科でインドネシア語を学んだことから、旧日本陸軍の通訳として従軍。戦後も帰国せず、現地の独立戦争に加わった。独立後は日本総領事館での勤務や日系企業との仲介に従事する傍ら、学生時代に打ち込んだ柔道を広めるため道場を設立した。

「でも、生前はどこで生まれたのかすら語らなかった」と盛明さん。ルーツは長い間、謎に包まれていた。

奇跡は今年3月、静岡市駿河区の鋳造会社役員栗田徳光さん(63)との出会いから始まった。栗田さんも拓殖大柔道部ＯＢ。会社でインドネシア人実習生を受け入れている縁で現地に柔道着を贈ったところ、知人を介して一家を紹介された。和田さんが大学の先輩であることに驚いた栗田さんは早速、同大関係者に調査を依頼。在籍記録などから和田さんは旧制静岡中（現静岡高）の卒業生と分かった。

偶然はそれだけではなかった。この日、同校を訪れた一家と栗田さんが目にしたのは、部活動の記録をつづった校友会誌。ひもといてみると、和田さんと栗田さんの父親は別々の学校で競い合った柔道のライバルで、何度も対戦していた。

「たまたま調査をお願いした栗田さんと深い関係があったなんて。信じられない」と雪子さん。栗田さんも「何かの運命に引き寄せられたとしか思えない」と目を丸くした。

一家は同校柔道部の生徒たちとも交流し、会話を弾ませた。盛明さんは「私たちのルーツを含め、今回の旅での奇跡を子孫に語り継ぎたい。そして父と同じように、私たちも両国友好の架け橋になりたい」と語った。

（社会部・薮崎拓也）

2019年6月25日朝刊

① スポーツが国際交流に果たす役割の意義を考察せよ。

② 柔道をはじめとする様々な日本の伝統武道を調べてまとめよ。

③ 太平洋戦争後にも現地に留まり、国際交流に尽力した先人の偉業を調べてまとめ、感想を書け。

年　　組　　名前

作問者：NIEアドバイザー　実石 克巳（静岡県立静岡高校　教諭）

（高校／国語）

＜参考＞①＝国際関係学・スポーツ学に関する問題、②＝文化学・スポーツ学に関する問題、③＝国際関係学に関する問題